

黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和3年9月10日(金)

NO.11



全国学力状況調査結果について

昨日(9日)、政府対策本部が緊急事態宣言の延長を決定したことを受け、福岡県は緊急事態措置を9月30日まで延長することを決定しました。それに伴い、八女市においても午前中授業(短縮授業)の期間を9月17日(金)まで再延長することとなりました。引き続き、感染予防の更なる徹底を行い、安全な学校生活づくりに向けて取り組んでいきます。



さて、5月末に小学6年生・中学3年生を対象にした「全国学力・学習状況調査」が実施されました。昨年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりましたので、2年ぶりの実施となりました。そして、先月末、本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が届きましたので、ご報告させていただきます。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われたものです。

内容は、「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の2つで、そのうち「教科に関する調査」は国語、算数となっています。

この「教科に関する調査」の結果は、全国の平均正答率を100とした標準化得点では、本校は96〜97であり、全国平均を下回る結果となっています。

学校では、調査の実施後すぐに、自校による採点を行うとともに、授業改善を図ってまいりましたが、このたびの調査結果の提供をもとに、さらに結果を十分に分析・活用して、学力向上に向けた取組を一層充実させていきたいと考えています。

次に、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の結果についてです。本校児童の良さと思われることは、「友だちと協力するのは楽しい」と感じている児童が多いということです。そして、そのことがさまざまな活動に対して積極的に取り組む姿勢に結びつくとともに、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問に肯定的な回答につながり、結果的に「学校に登校するのは楽しい」と肯定的に回答をすることにもつながっていると思われれます。



さらに、「国語・算数の勉強は大切である」「学習したことは将来役立つと感じている」児童の割合が高く、学習することの意義をしっかりと持っている様子が見られます。そのため、多くの児童が苦手としている記述式の「教科に関する調査」の問題に対しても、「最後まで書こう」としたり、分らない問題にも「諦めずにいろいろな方法で考えよう」としたりする児童が多く見られました。



しかし、「テレビやビデオを見る時間」「ゲームをする時間」が長い児童が多かったり、「自分で計画を立てて勉強する」児童の割合が低かったりする状況で、家庭学習の充実が必要であることが浮き彫りとなりました。

このような実態から、学校では今後は学校・学年で課題を共有し、学力向上プランを見直し、指導方法としていきます。また、「家庭学習の手引き」を活用しながら、家庭学習の充実を図るなど、学習習慣のより一層の定着を図っていくとともに、学習に向けた基盤づくりのために生活習慣を整えていくことにも力を入れていきたいと考えています。

このうち、家庭学習の充実や生活習慣の確立については、学校だけでなく、ご家庭の協力がたいへん重要となってきます。今回の学校だよりをご覧いただき、本校児童の実態をご理解いただくとともに、学力向上に向けて学校と家庭が一体となった取組となりますようよろしくお願いいたします。

前期のまとめの時期となっておりますが、後期は全教職員がチームとして以下のような取組を行ってまいります。

- 教師の授業力の向上
定期的な校内公開授業を行い、子どもたちに対する問いかけ・提示する資料の明快さなどについて協議し、授業力の向上を図ります。
- 家庭との連携
学級便り等を通じて、子どもたちの具体的な姿をお知らせし、学校と家庭のさらなる連携を図ります。
- 家庭学習の手引き
家庭学習への取組について、(学年に応じて)子どもたちに指針を示し、絶えず激励賞賛を行ってまいります。



学校と家庭、地域のトライアングルの中で子どもたちは成長しています。学校の取組について、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

※ なお、6年生一人一人には、個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。

